

時空散走 ebino

～えびの上江駅コース～

距離：約9km サイクリング所要時間：約45分 ウォーキング所要時間：約135分

今日も木崎原古戦場を訪れる人は絶えず

～末永・田の神さあから伊東霊堂、森岡城まで～

⑨ えびの市歴史民俗資料館

えびの市の歴史、民俗、祭礼、風土、人物、出来事などについて詳しく展示されているミュージアムです。古墳時代の遺跡「島内地下式横穴墓群出土の短甲や冑、銀象嵌大刀など国指定重要文化財の展示があります。※入館料無料。お問合せは0984-35-3144（電話）

⑧ 森岡城

えびの出身の森岡蔵徳氏には若い頃から「いつか日本建築の最高峰である城を築きたい」という壮大な夢がありました。大阪で建築、不動産の会社経営に成功すると、故郷えびのの土地を購入し、約50年の歳月をかけて森岡城を築城しました。敷地面積は約5万平方メートル（東京ドーム面積が約4万7000平方メートル）あり、白壁が美しい六つの櫓など計11の建物があります。2005年から一般公開を始めると約1万人が訪れる名所となりました。※入城料：大人（高校生以上）1000円。公開の受付時間は午前9時～午後3時半で水曜定休。お問合せは森岡産業（電話：0984-35-1516）へ。

打植祭

毎年3月の日曜日に行われます。香取神社（今西地区）の女神が天宮神社（田代地区）の男神を1年に1度、迎えに行く逢引の祭礼です。そのさいに約4キロの「神の道」を通りますが、昔は神馬（神さまを乗り移らせる）を使いましたが、現在は氏子の中から選ばれた若者が、その役割を担い、全力で集落を走り抜けていきます。氏子たちも同行して囃し立てたり、箆で打ったりして若者を急がせます。また神さまが香取神社に到着すると、田植え狂言（かわいい木牛が登場してユーモラスな寸劇です）などが奉納され、五穀豊穡を祈願する神事が行われます。

⑦ 香取神社

社伝によると白鳳7年（678）に下総（千葉）・香取神宮の分霊を移して真幸一之宮として祀られたといわれています。また戦国時代には島津義弘公の要請で伊東軍調伏の呪法が行われました。

⑥ ストーブハウス（民泊「まつくぼ工房」内）

完全予約制のランチ・カフェのお店で、木・金・土のみの営業です。石窯を使ってのピザ焼き体験や薪で沸かす露天の五右衛門風呂など「体験できる宿」がコンセプトの民泊「まつくぼ工房」内にあります。※お問合せ：090-4435-4012(電話)

木崎原合戦と伊東祐青(伊東マンショの父)

木崎原の合戦には伊東祐青（?～1577）が参加していました。本地原に陣をかまえ、島津義弘と戦いましたが惨敗して小林方面へ退却します。その後、島津軍が日向に侵出すると伊東軍は連敗し、天正5年（1577）、守護大名の伊東義祐は一族を引き連れて豊後国（伊東家は守護大名・大友宗麟と親戚関係にあった）へ亡命します。『日向記』によると、このとき護衛の一人に祐青の名がありますが、主君・義祐を逃がす途上で戦死したと推測されています。この祐青と妻「町の上」（伊東義祐の娘）の息子が伊東祐益（のちのマンショ。1569～1612）です。わずか8歳で父・祐青を亡くしましたが豊後国でキリスト教と出会い、セミナリオに入学して司祭を目指します。そしてキリシタン大名・大友宗麟らの名代として「天正遣欧少年使節」に選ばれて約8年の歳月をかけて渡欧してローマ教皇グレゴリウス13世と接見し、帰国しました。

① えびのゴッタン製作工房跡

ゴッタンは南九州地方に伝わる伝統工芸品の民俗楽器です。杉などを材料とした三本弦の楽器で「箱三線」「板三線」と呼ばれ、宮崎県では伝統的工芸品に指定されています。

② 池島川の河童と六部市長者

『飯野町郷土史』によると、かつて上江六部市に裕福な長者が住んでいました。その下男が馬を洗おうと池島川の杭に馬を繋ぐと馬が暴れて長者屋敷に逃げ帰り、よく見ると馬を繋いだのは杭ではなく河童でした。馬に引き回されて瀕死になった河童に下女がイタズラで水をかけると河童は蘇って川に逃げ込みます。数日後、屋敷前に川魚が置かれていて河童の贈り物だろうと食べると猛毒で、家中の者が死にましたが、なぜか下女だけは助かりました。以後も毎日、川魚は届き続け、下女は老婆となり、孤独に一生を終えたといわれています。

③ 末永・田の神さあ

田の神さあは薩摩藩独特の信仰で1700年代頃に霧島の噴火・天災が続いたさいに豊作祈願で作られたと推察され、現在、えびの市内で150体以上が確認されています。末永地区では毎年5月4日に「田の神さあ祭り」が行われ、市内外から見物客が訪れるほど人気です。

④ 鬼が島

日本古来の伝統的な「農」を継承しようと百姓の鬼川さんが農業や化学肥料を使わずにお米や有機野菜を育てています。とくに自家製の玄米もちは大気で「道の駅えびの」（えびの市永山1006-1）でも販売しています。

池島・伊東霊堂（非公開）

池島（木崎原合戦の古戦場がある集落）では敗北した伊東軍の戦没者供養のために「伊東霊堂」が作られて現在も星指義文家で祀られています。『広報えびの』によると明治23年（1890）に鉄肥（日南市）から伊東家の子孫が来訪し、金一封と共に祖霊供養をお願いしました。そこで銅製の御神体を作り、いまでも大切に供養しています。

池島の金貨伝説

明治15年（1882）、池島の大地主・木崎原金次郎の孫娘が屋敷の片隅でタケノコを掘っていたら壺が出てきて中には直径1寸（約3センチ）の丸型の金貨（藩金）が六量間（約10平方メートル）一杯になるほど入っていました。金次郎家の言い伝えでは屋敷北側に氏神さまとご神木があり、そこにもまだ金貨があるといわれています。現在、屋敷はなくなり、田圃になっています。

⑤ 木崎原古戦場跡

「三角田」で島津義弘は若武者・伊東祐信と一騎打ちをしたといわれています。祐信は義弘に襲い掛かり、渾身の槍の一撃を食らわせようとしたのですが、その瞬間、急に義弘公の愛馬が前脚の膝を曲げ、そのおかげで槍が反れ、その隙に義弘の太刀で祐信が斬られ、辛くも一騎打ちに勝利したと伝えられています。

※宮崎県 地域の魅力再発見支援事業

